

豚の平滑筋肉腫の一例について

千葉県中央食肉衛生検査所 ○一ノ関 瞳

千葉県東総食肉衛生検査所 吉野 学

【はじめに】

と畜検査における検査対象疾病の一つに腫瘍が含まれるが、一般的にと畜場に搬入され食肉となる豚は、おおむね6ヶ月齢程度と若齢であるため、肉豚において腫瘍を認めることは稀である（平成24年度当所における全部廃棄は255頭、うち腫瘍は4頭（0.003%））。

その中でも一般的にみられるものは、悪性リンパ腫、腎芽腫、黒色腫とされており、平滑筋肉腫の報告はあまりない。

今回、管内と畜場に搬入され、全身性の腫瘍で廃棄となった豚において、精密検査の結果、平滑筋肉腫と診断された症例に遭遇したのでその概要を報告する。

【材料及び方法】

と畜場に一般畜として搬入され、生体検査時に異常が認められなかった豚（6ヶ月齢、雄、雑種）の全身皮下脂肪織に認めた腫瘍、各躯幹リンパ節および臓器（心、肝、腎、脾、肺）を採材した。採材後、20%中性緩衝ホルマリン固定後、定法によりパラフィン包埋し、HE染色、PTAH染色、各種免疫染色（ビメンチン、デスミン、 α -SMA、横紋筋アクチン、S-100、HLA-DR）を実施した。

【結果】

1 肉眼所見

全身皮下脂肪織に小豆大～拇指頭大の、桃黄色～灰白色の充実性の腫瘍を多数認めた。左胸部に15×12mmの黄褐色腫瘍を、右肘部に32×25mmの出血を伴った腫瘍を認めた。

2 組織所見

腫瘍は高度の異型を示す紡錘形の腫瘍細胞が束状、錯状または花筵状に増殖していた。腫瘍細胞の核は類円形～楕円形、淡染。核小体明瞭。核分裂像は散見。腫瘍巣内では多数の多核巨細胞および微細な血管、中等度の出血を認めた。また腫瘍巣周囲において軽度の炎症細胞浸潤を認めた。腫瘍細胞はPTAH染色で横紋は認めなかった。

免疫染色では腫瘍細胞はビメンチンおよび α -SMAに陽性、デスミンに一部陽性、その他には陰性を示した。多核巨細胞はビメンチンに陽性、その他には陰性を示した。

3 診断

平滑筋肉腫

【考察】

今回の症例は紡錘形の腫瘍細胞であり、多核巨細胞がみられていることから、横紋筋肉腫、悪性線維性組織球腫なども疑われたがPTAH染色および免疫染色の結果から平滑筋肉腫と診断した。また、多核巨細胞は組織化学的所見から組織球系の細胞であると推測した。

平滑筋肉腫は一般的に消化器、女性生殖器、脾臓でみられるが、皮下織での発生は稀である。さらに、病理組織学的にも多核巨細胞を伴う平滑筋肉腫が豚でみられたという報告は見当たらず、非常に珍しい症例である。